

あなたの部屋

渡 辺 南央子 茨城

マタニテイのやうな水玉ワンピース生絹すずしの風を容れてそよげりくるみ程の鳥の脳なうきが記憶する空の路あり産土のあり

サンルイス・ポトシは星の国ならず子と孫ら棲む高原のまち

「この家にはあなたの部屋があります」とビデオレターで子の妻が言ふ
両手あげハグするごとくめがけ来るビデオ越しなる三歳の笑み

あぢさゐにあめ

中津川 勅 坐 埼玉

「骨折れた津南の叔母はあす手術」スマホを閉ぢて旅支度する
ミカン一つころがる叔母の留守宅で茶がらを捨てるふとんを畳む
町に無く郡にもなくて県にない叔母受け入れる介護施設は
遥かなる山のあなたの上州へ叔母を連れゆくホーム見つけて
待ちに待ちてホームのガラス戸越しに会ふ叔母の泣き顔あぢさゐにあめ

雲の竹夫人

伊 沢 玲 千葉

知らぬ間に期限の切れしポイントのごと核兵器朽ちてくれぬか
新婚の子の節約は砂のやま値上げの波が何度もさらふ
子の住所すつかりおぼえ書き慣れて今日はわかめとツナ缶送る
窓からのよき風うけてまはりをりスイッチOFFの扇風機の羽根
夕空にとどまる雲の竹夫人「そつと抱いて」と仄かあからむ

置いて逃げよ

小島 静子 東京

どのやうに詠むとも戦は遠国のことにて秋の夜風涼しき
われならば置いて逃げよと叫ぶらむ難民の列に老の混じれる
祖母われに若返れよと花柄の少女のやうなブラウスクれぬ
バックして切り返しまた切り返し白線にピタリ停車する見つ
三階より人の駐車を見届けておもむろに立つお茶にしよう

ゆるゆる

四野宮 和之 東京

蘭草の香充ちてゐるらむ看板が白地にみどりの文字（製畳所）
部屋を暗くすればそこそこリアルなり大曲よりの花火の映像
花火師はトーチ、観衆はペンライト振りてフィナーレ大曲の夜
美術館出れば六本木の空のはてなくあをし（七波）の渦中
ダイエットしたことなくてゆるゆるは下着のゴムが伸びただけです

肅々と

内山 真由美 新潟

感想とネタバレ混じる新刊のレビューを読めば読んだ気になる
マスク下げひと口食べてマスク上げアナウンサーは感想を言ふ
気がつけばあるあるみたいな歌ばかりこんなわたしを何とかしたい
夜に響く鈴虫たちのセクションに夫のかすかな寝息かさなる
コロナ禍のマスクの裏で肅々と進むわが子の齒列矯正

暗きみずうみ

勝山和美*富山

たつぷりと晩夏の雨をふくませてさるすべりの花風にあらがう
頂きし虹彩焼の花器を置き友に祈りのともしびともす
目瞑りて亡き友しのぶゆうぐれを遠き祈りの声がきこえる
殊のほか訃報のつづくこの夏よ ねむればいつも不確かな夢
亡き人を偲べば胸の奥深くしずかに広がる暗きみずうみ

空席

斉藤淳子 長野

亡き人は在りし人なり新しき空席ひとつ残して去りぬ
亡き叔父は言葉となりてをりをりに風の車を走らせて来よ
叔父のなき時間はすでに流れゐて肩のあたりを風が押しくる
追想をよぶ八月の炎天にうからの集ふやうなむら雲
秘められた祈りあるらん咲くまでの蕾の時間しづかなる百合

堰落つる水

吉田美奈子 愛知

みんなみへ間なく帰らむ力溜め当歳つばめは風に抗ふ
吹き上ぐる川風に声たわめられ蟬時雨濃く淡く響けり
笹舟をはや巻き込みて谷川の堰落つる水白くさかまく
穂ののぞく稲田の上に秋津群れ光の網なす夕陽を浴びて
夏仕舞せむと見上ぐる風鈴を鳴らし行く風 あなたでせうか

游禽

森 田 則 子 三 重

針山がほつれて出づる母の髪われよりわかく野のにはひせり
針山に潜みし母の絹針がつんと指をおまひ突く彼岸入り
「ごん狐」の里にわやわや彼岸花ひらきて新美南吉親ちかし
採りたてのポポーと栗を子の家の戸口に置けばごん狐われ
里芋をごろごろ洗へば指の間の水搔きのびて游禽となる

飛べない鶴

康 哲 虎 * 兵 庫

君の白い首を見ていたサーカスを見ている君の隣で僕は
夕暮れに少しの酒をのんで寝る左の羽根の動かない鶴
子らを寝かせ煙草をふかす青空を飛べない鶴はトイレの中で
一寸さえ飛べない鶴よ天の道を渡るときには一緒に飛ぼう
かたちない心もようを一行の韻律の良い日本語で書く

月の十字架

梅 田 陽 介 熊 本

早朝の火葬場にきみと二人きり ほくらの命が焼けるのを待つ
掃き集め壺に降らしぬピンセットですら拾へぬ墮胎児の骨
頭蓋骨の育たなかつた子を思ふ思へば脳の溶け出してゆく
真夜中の回折光から眼が離れぬ網戸に映える月の十字架
一房を大切に食む数多なる摘果の果ての蜜柑と思へば